

「平成27事業年度に係る業務の実績 及び第2期中期目標期間に係る業務 の実績に関する報告書」の概要

山形大学

2016年8月29日



自己評価の概要

項目	計画数	平成27年度		第2期	
		Ⅳ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅲ
I 教育研究等の質の向上の状況	52	21	31	21	31
II 業務運営・財務内容等の状況	26	8	17	8	18
(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標	8	3	5	3	5
(2) 財務内容の改善に関する目標 ※平成23年度に達成済みの中期計画は以降、年度計画の策定なし	8 (7)	3	4	3	5
(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標	4	2	2	2	2
(4) その他業務運営に関する重要目標	6	0	6	0	6
総計	78 (77)	29	48	29	49

○将来構想に基づく大学経営、Annual Planによる自己改革



- ・学長のリーダーシップの下で山形大学が有する強みや特色を活かし、教育、研究、社会貢献の機能を最大化できるガバナンス体制を構築するため、学内規則の改正を行い、経営組織（法人組織）と教学組織（大学組織）の役割の明確化並びに学長、理事、部局長等の職務、権限及び責任の明確化を行った。
- ・平成27年4月1日に、より高度な教育、研究、診療及び社会貢献を推進することを目的に「学術研究院」を設置し、分野に分けることなく教員の所属を一元化した。学術研究院の設置により、従来の教育体制と教員所属組織を分離させ、教育組織を異にする複数の教育プログラム（カリキュラム）に対して最適な教員集団を配置したり、分野を越えた新たな研究を推進するための研究実施体制を柔軟に編成できるようにした。

業務実績報告書の概要～財務内容の改善～

○山形大学産学連携実績～民間企業との共同研究～

○研究費受入額（単位：千円）（全国の大学等 計1,036機関）

No.	機関名	受入額	区分	前年度 No.
1	東京大学	4,840,830		2
2	京都大学	4,792,490		1
3	大阪大学	3,215,597		4
4	東北大学	2,743,606		3
5	九州大学	1,901,041		5
6	慶應義塾大学	1,585,213	私	6
7	名古屋大学	1,431,172		7
8	東京工業大学	1,409,436		8
9	北海道大学	994,079		10
10	早稲田大学	592,542	私	11
11	神戸大学	581,319		12
12	山形大学	571,328		16
13	名古屋工業大学	524,376		13
14	筑波大学	483,879		20
15	千葉大学	473,884		15

【全国 1位】

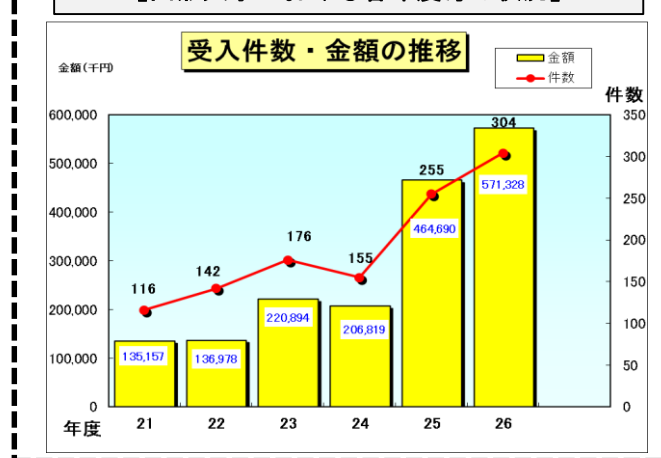
○平成21年度から平成26年度において、受入額の平均伸び率が大きい機関

No.	機関名	平均伸び率	区分
1	山形大学	約40.8%	
2	東海大学	約15.6%	私
3	名古屋工業大学	約14.9%	
4	長岡技術科学大学	約13.8%	
5	山口大学	約13.4%	
6	早稲田大学	約13.0%	私
7	京都大学	約12.7%	
8	熊本大学	約11.5%	
8	筑波大学	約11.5%	
10	名古屋大学	約11.2%	

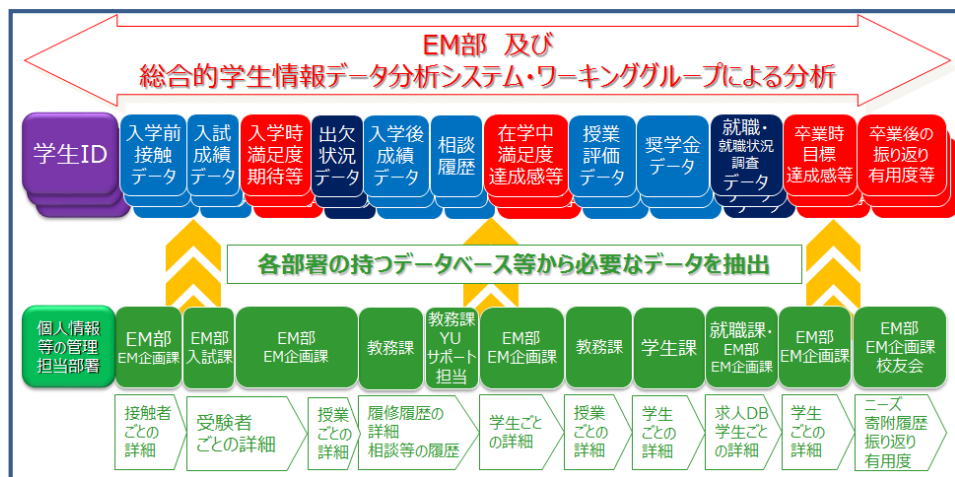
※平成21年度から平成26年度において、共同研究実施件数が各年度100件以上の機関を対象

（出展元）文部科学省：平成27年12月25日
平成26年度大学等における産学連携等実施状況について

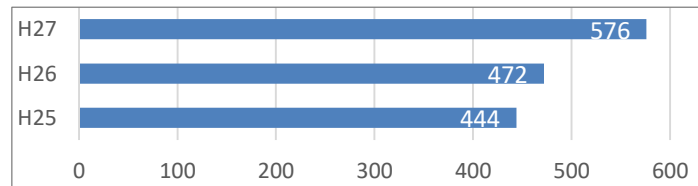
【山形大学における各年度毎の状況】



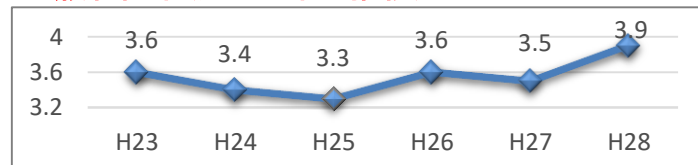
○総合的学学生情報データ分析システムの構築と入試戦略での活用



■高校訪問及び大学説明会開催数(過去3年の推移)



■志願者倍率(過去6年の推移)



業務実績報告書の概要～自己点検・評価及び情報提供～

○独自の組織評価を実施し、インセンティブ経費を配分



本学独自の組織評価は、「運営」「教育」「研究」「社会連携」「診療(附属病院のみ)」活動の評価項目ごとに、各部局において年度目標を設定し、各部局の自己点検・評価に基づき、役員会が評価を行う。

特徴としては、以下が挙げられる。

- ①経営協議会の学外委員によるヒアリングと評価を実施
- ②評価結果に応じて部局にインセンティブ経費を配分
- ③評価結果を項目ごとにレーダーチャートにして各部局に通知

○ホームページの刷新、SNSの活用などによる積極的な情報発信

旧ホームページ



新ホームページ



Facebook公式アカウント



業務実績報告書の概要～その他業務運営～

○魅力あるキャンパスの整備

小白川、松波地区



文系総合研究棟(H25改修)



附属小学校(H26改修)



校内サイン・誘導案内板
(H27設置)

飯田地区



病院・外来・中央診療棟(H26改修完了)



重粒子線がん治療装置研究棟(H26開所)



医療コンシェルジュステーション
(H26開所)



がん研究センター(H26開所)

鶴岡地区



啓明寮(改修前)



啓明寮(H24改修後)

米沢地区



有機エレクトロニクス
研究センター(H23開所)



有機エレクトロニクスイノベーション
センター(H25開所)



蓄電デバイス開発
研究センター(H26開所)



グリーンマテリアル成形加工
研究センター(H27開所)



有機材料システム
フロンティアセンター(H27開所)



第一世代有機システム実証
工房スマートハウス(H27開所)

教育研究等の質の向上～基盤教育～

○学士課程教育の基盤となる「基盤教育」の導入(平成22年度～)と充実

①共通テキストとして独自に教材を開発



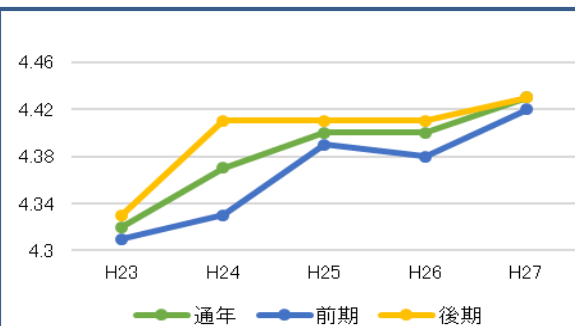
②地域の豊富な自然及び資源を活用したフィールド科目を開講



③実践力を涵養するためにキャリア教育を強化



学生の満足度は高く、上昇傾向に！



教育研究等の質の向上～YU-COE～

○山形大学先進的研究拠点(YU-COE)による重点支援を通じた世界的研究拠点の形成 有機材料

①基礎研究

ROEL



有機エレクトロニクス
研究センター



有機EL世界No.1
産業化社会実装に向けた
山形モデル

④実証試験



スマート未来ハウス

②応用研究・製品試作



有機エレクトロニクス
イノベーションセンター

③システム化 ハード・ソフトの融合



有機材料システム
フロンティアセンター



世界初、ラッ
プよりうすい
ハンカチサイ
ズ印刷で作製
した電子回路



世界初、全て
印刷でつくる
曲がるディス
プレイ

- ・城戸淳二教授がトムソン・ロイター社の“Highly Cited Researchers”(全世界で約3000人、うち日本から約100人が選出)に2年連続で認定。
- ・平成26年度の科学研究費助成金の研究分野別ランキングにおいて「デバイス関連化学分野」で1位。

ナスカ地上絵



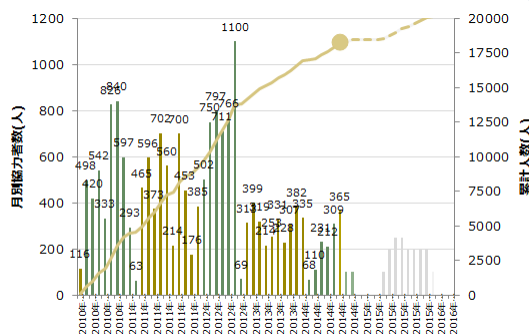
ナスカ市街地(ペルー共和国イカ県ナスカ市)近郊において、動物の地上絵を新たに発見(計41点)。平成27年4月23日にペルー共和国文化省と「特別協定書」を締結。

総合スピ科学



欧州原子核研究機構(CERN)に山形大学サテライトを設置し、大型偏極陽子ターゲットを用いた世界初の実験を開始。

分子疫学



コホート研究協力者が増加し、計約2.3万人に到達。J-MICC(日本多施設共同コホート研究)とのゲノム解析に係る共同研究を開始。

教育研究等の質の向上～社会貢献、国際化～

○地域イノベーション戦略等の推進、附属病院における先進的医療の提供

有機エレクトロニクス

■文部科学省「地域イノベーション戦略推進地域」に選定

本学を含む自治体、金融機関及び民間企業等で推進する「山形県有機エレクトロニクスイノベーション戦略推進地域」において、基礎研究と企業との間で産業化に向けて欠けていた機能である、橋渡しの体制（基礎から産業までの一連の流れを創る）を整備中。

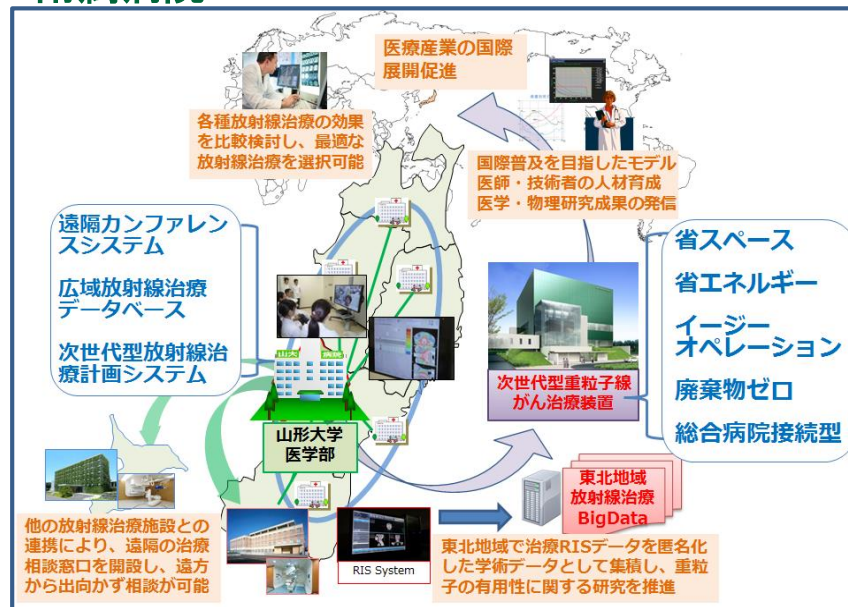
■経済産業省「産学連携イノベーション促進事業」に選定

「山形大学有機薄膜デバイスコンソーシアム」を形成し、企業を垂直的に連携させて透明導電フレキシブル基盤製品化の基盤技術を構築中。

■蓄電デバイス分野における世界的拠点の形成

リチウムイオン電池の4つの部材である正極・負極・電解液・セパレータとそれを組み立てる製品サイズの製造、その後の充放電性能試験、安全性試験までのすべての機能を1つの場所で行える「ワンストップ拠点」を、世界唯一の拠点として飯豊町に形成する取組を推進中。

附属病院



○学生大使、グローバルカフェ、JICA研修生の受入れ等を通じた多様な国際交流の推進

